

ネットワークを広げて 地域住民を支援



早いもので、大船渡市社会福祉協議会に勤務して今年で5年が経とうとしています。この5年間を一言で表現するなら「目まぐるしかった」の一言に尽きます。

そもそも、私自身もともと医療機関の医療ソーシャルワーカーとして勤務しておりました

が、大船渡市社協に勤務する直前である平成23年3月11日の東日本大震災発災に

よって、私の実家も被災・流失し、避難所生活を余儀なくされました。

その後、大船渡市社協に勤務することとなりましたが、当初は、災害対応をしていた

こともあり、通常業務の内容はもちろん、自分自身の立ち位置もよくわからないまま災

害ボランティアセンターの運営を行ってきました。心機一転するつもりが、「何をどう

したらいいかすらわからない」「大変なときに勤務することになってしまった」とプレッシャーを感じる一方で、震災によって無職になつた人もいるなかで、自分は仕事ができる環境にあるという安堵感も

ありました。

そして、日々多忙な毎日を過ごしていたことが震災のことを忘れさせてくれ、仕事が心身の拠り所となつていたと思ひます。

また、これまで、今回の震災で大船渡市に支援に来ていていた約40,000人のボランティアをはじめ、多く

社会福祉法人大船渡市社会福祉協議会
生活福祉課 主事 只野 翔

の後方支援の社協及び各種団体の皆さんと出会うきっかけになりました。震災がなければ一生出会うことがなかつた人もたくさんいたと思います。同時に、多くの方々に支えられてこの5年間過ごしてきました。

私も含め、東日本大震災で被災して失つたものがたくさんあつたと思ひますが、得たものも少なからずあつたと思っています。

私自身も含め、東日本大震災で被災して失つたものがたくさんあつたと思ひますが、得たものも少なからずあつたと思っています。

災害ボランティアセンター、福祉ボランティア活動及び福祉教育支援事業等を経て、現在は、主に生活福祉資金貸付事業及び生活困窮者自立支援事業を担当しています。

相談者の多くは、様々な生活背景を持ち、複雑な人生をおくつてきている人がたくさんおり、自分の持つている常識が通用しないことも多く、毎日が驚きと発見の連続です。

そのため、相談者を100%理解することは不可能だと思つていますが、理解する努力だけは怠らないようにと考えながら勤務する毎日です。

また、利用者の多くが私よりも年上で、私自身30年しか生きていらないなかで、そのような人たちの相談を受けたり、助言をしたりすることに気が引ける部分もあります。

新規職員の指導役や
地域福祉活動の推進役に
只野主事は東日本大震災の年に入職し、本来であれば、研修を行つてから職務に就くのですが、当時はその余裕も

いました。右も左も分からぬ状態での毎日は、かなりつらかったと思います。

平成28年度は、3名が新規採用となるので、只野主事には先輩職員として、今までの経験を生かし、新規採用職員の指導役や、今後の地域福祉活動の推進役として取り組んでもらうこと期待しています。

上司からのメッセージ



社会福祉法人
大船渡市社会福祉協議会
生活福祉課 課長補佐
熊谷 淳一

それでも、相談者が相談に至るまでに多くの葛藤があつたことを考えれば、その人の人生を半分くらいは背負う覚悟で全力で応えなければ、と思っています。

一方で、どんなに全力で対応しても1人では限界があるのがこの事業だということも人生を半分くらいは背負う覚悟で全力で応えなければ、となるかわかりませんが、これからも人脈をひろげつつ、多くの人の協力を得ながら、頑張つていこうと思っています。

表紙写真●笑顔の福祉

「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」のスローガンのもとに開催された「希望郷いわて国体」冬季大会では、大会中、県社協障がい者福祉協議会の15施設等が約100品目の製品を販売。来県された方々に復興に向かって力強く前進する福祉施設の姿と、感謝の気持ちを感じていただきました。

広報「パートナー」は本会のホームページでもご覧になれます。
お問い合わせは県社協総務部☎019-637-4466まで。

岩手県社会福祉協議会ホームページアドレス
<http://www.iwate-shakyo.or.jp/>